

第5章 施設別ガイドライン

1 「地」としてのデザインの必要性

公共施設は、施設ごとに景観形成の役割が異なるものの、基本的には第4章「各施設に共通する景観形成の考え方」での記述にあるように、現状の自然環境や住環境を始め、歴史や文化などの周辺の良い景観を損なうことがないように、周辺の景観特性を把握し、調和性や連続性などに配慮しなければなりません。

そこで、第3章-2「景観形成を考えるうえでの5つの観点」のなかでも、特に(1)「見え方・構図」における「地」と「図」という景観の捉え方をもとに、ほとんどの公共施設は、周辺の良好な景観と調和し、また、自然環境などを際立たせるように、あえて「地」としてデザインするものとします。各公共施設の整備において、心がけるべきキーワードを確認し、本章で示す具体的な配慮事項に基づいた整備を行うことが重要です。この「地」こそが、周辺環境やそこで生活、活動する人を際立たせるための『景観デザインの要』であり、公共施設はその役割を担っています。

また、公共施設の構成要素において、個別に検討するのではなく、施設全体や周辺の施設と一体的な空間として捉え、特に以下に示す(10)シンボル性を除いた9つの心がけを意識して、総合的な視点で「地」としてデザインするために知恵を絞ることで、過度なデザインとならないように配慮することが必要です。

なお、公園・緑地及び公共建築物は、立地場所や施設の特성에応じて(10)シンボル性が必要となる場合もありますが、他の公共施設と同様に、総合的な視点で検討することが必要です。

表5-1 「「地」としてのデザインに必要な景観形成を考えるうえで大切な心がけ」

<div style="border: 2px dashed gray; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 60px; margin: 0 auto;"> <p style="font-size: 24px; margin: 0;">「地」</p> </div>	(1) 調和性 …周辺の景観要素との調和
	(2) 統一性 …施設内や空間において全体的にまとまりのある空間形成
	(3) 連続性 …周辺の景観要素とのつながりの確保
	(4) 安全性 …機能性のなかにも安全や安心の確保
	(5) 参加性 …計画や管理を地域とともに行うことで利用者の愛着を創出
	(6) 持続性 …維持管理などのメンテナンスへの配慮
	(7) 地域性 …歴史や地形などのその土地らしさへの配慮
	(8) 快適性 …その場の居心地の良さやおもてなしの創出
	(9) デザイン性 …質が高く、長く飽きのこないデザイン
	(10) シンボル性 …その地域の象徴となるシンボル性の高いデザイン



文化博物館からの眺望

自然環境や住環境の背景として、溶け込むように「地」としてデザインしよう。



2 施設ごとのデザインの考え方

(1) 連続性や一体感のある景観づくりを目指す

道路、橋梁・高架構造物

都市の景観形成において基盤となる役割を持つ道路やその延長である橋梁・高架構造物は、連続性や一体感のある景観づくりを目指すものであり、そのため背景となる「地」としてデザインすることが重要です。

そのためには、各施設とのつながり、まちなみや周辺景観とのかかわりなどに配慮する必要があります。



都市計画道路 駅前線（錦江橋）

舗装パターン、街路灯や植樹など、前後の道路との連続性に配慮されており、写真の奥が橋梁であることを感じさせないような連続性と一体感のある景観が形成されている。

(2) 周辺の自然環境を際立たせる景観づくりを目指す

海岸・港湾、河川・水路・ため池

明石を代表する自然環境である海岸・港湾、河川・水路・ため池は、海辺や水の流れ、水面など、自然環境そのものを際立たせる景観づくりを目指すものであり、そのため背景となる「地」としてデザインすることが重要です。

そのためには、自然環境との調和、淡路島や明石海峡大橋を望む眺望、水辺のネットワークなどに配慮する必要があります。



中崎のベランダ護岸

海辺を際立たせるように、護岸を階段状に設けることにより、淡路島や明石海峡大橋を望む眺望に配慮され、自然環境そのものを際立たせる景観が形成されている。

(3) 施設の役割を見極めた景観づくりを目指す

① 公園・緑地

都市環境の保全や自然と人との関わりの場である公園は、立地している場所や施設の役割を見極めて、居心地の良さや楽しく遊んでいる人を際立たせる景観づくりを目指すものであり、そのため背景となる「地」としてデザインすることが重要です。

しかしながら、遊具などの公園施設においては、「囿」となるものもあります。その場合は、空間全体のコンセプトを踏まえ、「囿」の公園施設が空間のなかで際立つように、その他は「地」とするなど、全体として、自然環境との調和や市民が愛着を持てるように配慮する必要があります。



石ヶ谷公園の遊具

市民に親しまれる遊具とするため、小学生が参加したワークショップにより遊具のコンセプトを決定することで、総合公園としての役割や市民の愛着心に配慮した景観を形成している。

② 公共建築物

公共建築物は、立地している場所、その施設の役割、利用者の使われ方などにより、周辺景観と調和させる「地」とすべきか、また、際立たせる「図」とすべきか、それらを見極めて、「地」と「図」に分類してデザインすることが重要です。

なお、「図」に分類される場合であっても、建築物の壁面や外構などすべての要素を「図」としてデザインする必要はありません。空間全体のコンセプトを踏まえ、「図」となる要素を際立たせるようにその他は「地」とするなど、全体として誰もが利用しやすい施設づくりや周辺景観とのかかわりに配慮する必要があります。



西部市民会館

隣接する住宅地や公園などの周辺景観に馴染みつつ、シンボル性の高いデザインの建築物であり、親水公園と一体的な空間が形成され、周辺景観とのかかわりに配慮した景観が形成されている。

表5-2 施設ごとの目標とすべきデザインの考え方

デザインの考え方	目標、目指すところ	対象施設
「地」	(1) 連続性や一体感を持たせる	道路 橋梁・高架構造物
	(2) 周辺の自然環境を際立たせる	海岸・港湾 河川・水路・ため池
	(3) 施設の役割を見極めて調和させる	公園・緑地 公共建築物
「図」	(3) 施設の役割を見極めて際立たせる	公園・緑地 公共建築物





3 道路

舗装

(1) 調和性

- 車道の舗装は、黒色などの無彩色を基本とする。
また、安全性に配慮し、着色をする場合は、できる限り低明度または低彩度のものを使用する。
- 歩道の舗装は、車道と合わせたものや、自然色を基調とした舗装材料を使用する。
また、原則シンプルで落ち着いたデザインとし、周辺と連続的で一体的な空間形成に努める。



車道と歩道が一体となった落ち着いた空間を形成（明舞の住宅地）

(2) 統一性

- 他の公共施設との関係性を考慮し、一体的な空間となる舗装材料や舗装パターンとするように努める。
- 事業者や管理者が異なることで、舗装パターンが異なる道路と接する部分においては、舗装材料や色彩を一部取り入れるなど、つながりを持たせて一体的な空間形成に努める。



歩道と公園がなじんで調和した空間を形成（松江公園の周辺道路）

(6) 持続性

- 舗装材料は耐久性があり、誰もが通行しやすいものを使用する。

(8) 快適性

- 駅前広場やシンボルロードなどで、インターロッキングを使用する場合は、色の組み合わせなどにより、にぎわいを感じさせるように工夫するものの、意味なくランダムに設置したり、安易な模様張りや過度なデザインは避ける。

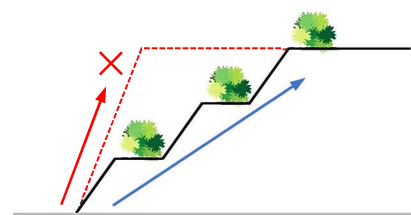


シンプルな舗装パターンで広がりのある歩行者空間（大久保駅南広場）

構造物

(1) 調和性

- 景観の阻害要因とならないよう、自然素材の活用、コンクリート表面仕上げ、緑化などにより、周辺環境との調和や連続性を保つように努める。
- 法面や擁壁面は、勾配を緩くするなど、圧迫感をやわらげるように工夫する。



法面の勾配を緩くし、緑化などにより、圧迫感を軽減



付帯施設

(1) 調和性




- 防護柵などの柵類は、周辺の景観を阻害しないように、できる限りシンプルなデザインとする。
また、目立たない落ち着いた色彩として、ダークブラウンやグレーベージュなどを使用する。
- 道路標識や街路灯などは、歩行者などの視界を遮らないように配慮するとともに、周辺景観と調和する色彩を選択し、一体的な空間形成に努める。



周辺景観と調和したダークブラウンの防護柵（松江公園の周辺道路）

参考 鋼製防護柵において基本とする色彩の標準マンセル値

※周辺景観のなかで防護柵が必要以上に目立たない塗装色を選定する。

	ダークブラウン（こげ茶色） 10YR2.0/1.0 程度
	グレーベージュ（薄灰茶色） 10YR6.0/1.0 程度
	ダークグレー（濃灰色） 10YR3.0/0.2 程度

出典：「景観に配慮した防護柵の整備ガイドライン」（国土交通省）

(2) 統一性

- 信号や道路標識、街路灯などは、特に交差点部分において、交通管理上の機能を確保しつつ、統合や共架を図り、できる限り数量を整理する。
- サイン類は、見やすさとわかりやすさを基本とし、できる限りシンプルなものとする。



信号と街路灯が一体となり、すっきりとした空間を形成（明石駅周辺）

(8) 快適性

- ベンチの設置や視点場の確保など、市民や来街者に対するおもてなしを表現し快適で魅力ある空間の創出に努める。
- まちの魅力を高める効果があるため、まちかどなどのふさわしい場所に特色のあるストリートファニチャーなどを設置するように配慮する。



駅前にベンチを設置し、快適な空間を創出（魚住駅）

緑化

(3) 連続性

- 幹線道路では、歩行者など視界を遮らないように配慮しながら、樹形の整った並木や植樹柵を組み合わせるなど連続的な空間形成に努める。
また、樹木の成長などの将来的な景観の変化を予測しながら配置を工夫する。



樹形の整った並木により連続的な空間を形成（江井ヶ島松陰新田線）



(7) 地域性

- 明石らしさやその地域らしさを表現するため、「あかしの街路樹実務者マニュアル」に示されている推奨木や播磨五木などの樹種の選択に配慮する。
- 商業地や業務地などでは、樹形の整った植樹をすることにより、整然とした風格のある空間の形成に努める。
- 住宅地などでは、低木や植樹帯を中心に四季を感じる樹木や草花を配植し、優しい空間の創出に努める。
- 駅前広場など、多くの来街者を迎える場所では、その場所にふさわしい品格とやすらぎが感じられる、緑豊かな景観形成に努める。
- 中心市街地のまちかどなどでは、地域の個性を表現するシンボリックな樹木や並木などにより、空間を際立たせるように工夫する。



植樹によりうるおいのあるまちかどを形成（国道2号明石駅前交差点）



周辺の緑と一体となったやすらぎを感じさせる空間（公園前線）

境界部

(2) 統一性

- 沿道の公共建築物や公園などとの境界部において、一体となった広がりやゆとりのある歩行者空間の確保に努める。
また、できる限り歩行者空間の境界を意識させない、快適で魅力的な空間の形成に配慮する。



歩道と公園入口を一体的に広がりのある空間とする舗装（中尾親水公園）

(3) 連続性

- 周辺の緑や水辺空間と連続した緑化、舗装素材及び色彩の使用に努める。

改修・維持管理

(4) 安全性

- 車道部分と歩道部分の大きな段差や歩道の波打ちを解消することにより、人に優しい路面形成に努める。

(6) 持続性

- 改修や維持管理にあたっては、当初の設計コンセプトを尊重して、維持管理を行う。また、形態、意匠や素材を周辺の景観と調和するように配慮する。
- インターロッキングなどの舗装材は、アスファルト舗装に比べて、特に車両の乗り入れ箇所などで劣化の影響が強くなるため、きめ細やかな維持管理を行う。
- 街路樹や植樹帯の剪定や枝打ちなどを適正に行い、緑と秩序を感じる沿道景観の形成に努める。



車道と歩道の段差が解消され、人に優しい路面を形成（黒橋線）



4 橋梁・高架構造物

本体

(1) 調和性

- 桁側面や橋脚は、重苦しさを軽減したデザインとし、桁と橋脚の接合部のシンプルな収まりとなるように工夫する。
- 周辺の視点場から見たときに背景となる景色と重なった見え方も検証してデザインするように工夫する。
- 周辺の景観資源などとの関係を取り入れるなど調和に努める。



シンプルな収まりとなった桁と橋脚の接合部（藤江線）

(3) 連続性

- 橋上の空間は、橋梁へアプローチする道路の延長として連続性を持たせるように努める。



道路の延長としてつながりのある橋上空間（錦江橋）

(8) 快適性

- 橋梁が視点場から見える眺望の連続性を断ち切らないように努める。

(9) デザイン性

- 上部に構造体が現れる橋梁の場合、あらゆる角度からの見え方を検証したうえで、デザインを決定するように努める。
また、その場所にふさわしいデザインコンセプトとなるように努める。

付帯施設

(1) 調和性

- 排水管が、歩行者や運転手から見える場合は、橋梁のスリットに埋め込むなど、デザインの一部として見せるように配慮する。

(2) 統一性

- 橋上の附属物は、具象的な装飾や華やかなデザインを避けたシンプルなものとし、橋梁との統一感の形成に努める。



シンプルで統一感のある高欄や街路灯（嘉永橋）

(8) 快適性

- 高欄は、歩行者や運転者の河川などへの見通しを阻害しないよう、視線を遮らない軽やかなデザインとするように努める。



視線を遮らない軽やかなデザインの高欄（嘉永橋）



改修・維持管理

(6) 持続性

- 損傷個所の補修や塗装など、定期的に点検、調査、補修などを行うことにより、良好な景観の保全に努める。
- 塗り替えや改修時には、新設時のデザインコンセプトの尊重に努める。



橋梁長寿命化修繕計画に基づく点検
(大蔵朝霧陸橋)





5 海岸・港湾

全体空間

(1) 調和性

- 周辺や海からの見え方に配慮し、港湾全体が整然とした印象となるように、建築物は配置や形態を工夫するとともに、落ち着いた色彩のある色彩とするように努める。

(2) 統一性

- 海岸全体として、海際の砂浜などと一体となった広がりのある空間となるように努める。



砂浜と一体となった広がりのある空間を形成（江井島海岸）

(7) 地域性

- 海へつながる道路の整備や、誘導する案内板を設置するなどにより、海を感じることができる一体的な空間形成に配慮する。



大蔵海岸へつながる道路（海辺への道）

(8) 快適性

- 休憩施設や広場を整備することなどにより、海岸としての魅力形成に努める。
また、「浜の散歩道」など、潮の香りとさわやかな風を感じながら快適に散策できる空間の確保に努める。



休憩施設により快適な海辺空間を形成（藤江海岸休憩施設）

付帯施設

(1) 調和性

- 照明やポール、防護柵などは、落ち着いた色彩に揃え、周辺景観との調和に努める。

(8) 快適性

- 前面に広がる瀬戸内海や明石海峡大橋への眺望を重視するため、休憩施設などにおいては、視点場となることを意識して適切な施設配置となるように努める。



落ち着いた色彩で、周辺と調和した防護柵（中崎のペランダ護岸）



緑化

(2) 統一性

- 海岸沿いおよび段丘崖などを適切に緑化したり、後背地の公園などと一体となった緑豊かな空間の形成に努める。



隣接する公園と一体となった緑豊かな空間を形成（松江海岸休憩施設）

(8) 快適性

- 敷地の境界部では、建物などによる圧迫感を軽減するように植栽で修景を図ることなどに工夫する。
- 四季を彩る草花などの植樹により、訪れる人々が季節を感じることを、うるおいのある緑豊かな自然海浜の形成に配慮する。



うるおいのある緑豊かな空間を形成（大蔵海岸）

改修・維持管理

(5) 参加性

- きめ細やかな海岸管理の充実を図るため、利用者の視点を取り入れた海岸モニターの活用による適切な維持管理に努める。

(6) 持続性

- 市民などへの積極的な啓発などにより、砂浜などの適正な利用を誘導することにより、良好な景観の維持に努める。



ボランティアによる清掃活動



6 河川・水路・ため池

構造物

(1) 調和性

- 河川やため池などのコンクリート護岸は、石など素材感のあるものや、多孔質なものを使用することにより、表情豊かな自然の風合いのある景観の創出に努める。
- 自然とのふれあいや水辺景観を楽しむ空間をつくる場合は、できる限り石や木など自然素材を活用することで自然になじむように配慮する。



自然石を用いて表情豊かな景観を形成（黒星池）

(2) 統一性

- 既存の護岸などと接する部分では、緩衝帯として植栽を行ったり、既存のものデザインの一部取り入れるなど、一体的な空間の形成に努める。
- 護岸を階段状や緩い傾斜にすることなどにより、公園や遊歩道と河川やため池などが一体となった空間を形成するように工夫する。



階段状とし歩道と一体となった親水護岸（朝霧川）

(3) 連続性

- 河川・水路・ため池の水辺空間と、公園や農地などの緑空間の連続性を保つことにより、水辺の生き物や植物の生息環境に配慮する。

(8) 快適性

- 散歩や憩いを求める人が集うことから、親水護岸や周辺の水辺や緑を眺めながら散策できる遊歩道など、水辺空間に親しみを持てるように工夫する。



できる限り自然に近い形で整備された遊歩道（中笠池）

付帯施設

(1) 調和性

- 設置する付帯施設の形状や色彩などは、河川・水路・ため池それぞれの空間全体としての調和に努める。
- 河川や水路は、道路などと連携し、転落防止柵などを道路用施設と兼ねて設置するなど、河川や水路と道路などが一体となった景観の形成に努める。
- 柵は、歩行者の目線から河川やため池への眺めを妨げないシンプルな形状とし、周辺景観の中で目立たない色彩のものを使用する。
- 水門や樋門は、門扉とともに、水辺の景観の中で特に目立つことがないように、周辺景観に溶け込むデザインや色彩に努める。



道路の転落防止柵と一体となった景観を形成（朝霧川）



(2) 統一性

- 標識や案内板は、デザインの統一を図り、控えめでシンプルなデザインとし、周辺に調和した色彩の使用に努める。
また、景観上影響が少なく、わかりやすい位置に設置するように努める。

(5) 参加性

- 柵、ベンチ、あずま屋などは、その設置の必要性などについて、地域の利用者の意見を反映することに努める。



周辺でデザインの統一されたため池案内板（釜谷池）

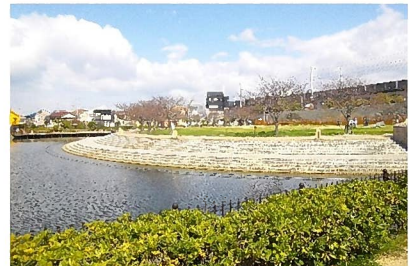
緑化

(1) 調和性

- 河川の堤防やため池の堤体などで、植樹などができる場所においては、緑化を図り、周辺の自然環境と調和した緑豊かな景観形成に配慮する。

(7) 地域性

- 水路やため池と公園が隣接したり、公園内に水路やため池がある場合は、緑豊かな景観を形成するとともに、親水空間をつくるなど公園と一体的な空間の形成に努める。
- 河川では、連続した堤防景観を生かし、並木を保全するなど、その地域らしさの演出に努める。



親水護岸を設け、公園と一体的な空間を形成（中尾新池）

改修・維持管理

(5) 参加性

- 河川やため池などは、地域の財産であるという意識を持ち、市民との協働による清掃活動などの維持管理により、良好な景観の維持に努める。

(6) 持続性

- 適切に草木の伐採を行うなど、水辺の景観を守りつつ、安全上問題が生じないよう適切な維持管理に努める。



農業者と周辺住民の協働による清掃活動（ため池クリーンキャンペーン）



7 公園・緑地

全体空間

(1) 調和性

- 平地や傾斜地などの地形を生かしつつ、住宅地や水辺空間など周辺のまちなみとの調和に努める。
- 擁壁は、自然素材を活用するとともに、ひな壇状に植樹帯を設けるなど、目立たないように工夫する。
また、勾配を緩くするなど、圧迫感の軽減に配慮する。



傾斜地を生かし、海辺空間と調和した公園（八木遺跡公園）

(8) 快適性

- 入口部分は、多くの利用者にわかりやすく、気軽に立ち寄ることができるよう開放的で、落ち着きと親しみを感じられる空間形成に努める。



開放的で親しみを感じられる公園の入口（松江公園）

(10) シンボル性

- 大規模な公園においては、地域のシンボリックな空間を創出するために、その地域に相応しいテーマ性を持った公園となるように工夫する。

建築物・工作物

(2) 統一性

- トイレなどの建築物は、自然素材を取り入れるなど、公園全体のコンセプトに基づき、シンプルで調和したデザインに努める。
- 公園の規模によっては、できる限り屋上緑化や壁面緑化を導入するなど、公園になじむように配慮する。



自然素材を取り入れ、公園全体に調和したトイレ（明石北わんぱく広場）

付帯施設

(1) 調和性

- フェンスなどの柵類は、できる限りシンプルな形状とする。
また、公園の特性に応じて、それぞれの整備コンセプトと整合を図った色彩のものを使用する。



公園の特性に応じた楽しい空間を形成（西二見小池公園）



(2) 統一性

- 案内板は、周囲から浮き立つデザインは避け、シンプルでわかりやすい表示とする。
また、できる限りデザインや高さなどを揃え、ともに集約化に努める。

(7) 地域性

- 場に相応しいモニュメントの設置などにより、その地域らしさを表現し、多くの人々が訪れ、楽しむことのできる空間の形成に努める。

(8) 快適性

- ベンチやあずま屋などの休憩施設は、眺望など良好な景観が得られる視点場となるよう、また、人が落ち着く空間となるように配慮する。
- 遊具は、子供が楽しく遊べるものを設置し、利用者と一緒に魅力ある景観の形成に努める。



シンプルな案内板と楽しい雰囲気をもたらす遊具（松江公園）



低年齢の子供たちが楽しく遊べるように配慮された遊具（石ヶ谷公園）

緑化

(4) 安全性

- 周辺から公園内の活動がわかるように樹木の枝下高を確保したり、生垣の高さを目線以下にするなど、視線を遮ったり、死角をつくらないように努める。

(7) 地域性

- 公園内にシンボルツリーなどを育成し、緑豊かで、市民に親しまれる公園づくりに努める。
- 従前から存在する自然植生を考慮しつつ、樹種が特定のものに偏らないよう、季節を感じることができる樹種の選択に努める。



緑豊かで季節を感じられ親しまれる公園（明石公園）



境界部

(1) 調和性

- 駐車場を設ける場合は、周囲に植樹や緑地帯を設けるなど、周囲からの遮蔽や単調さを解消するように努める。



生垣により駐車場への視界を遮蔽
(明石北わんぱく広場)

(2) 統一性

- 入口部分では、周辺の歩道など同一の素材を使用したり、近似するデザインを取り入れることで、一体感が感じられるように努める。
- 歩道沿いに道路側の樹木と同一樹種の樹木を植えることにより、一体的な空間の形成に努める。



公園入口と歩道が一体的に広がりのある空間とする舗装
(中尾親水公園)

改修・維持管理

(5) 参加性

- 遊具の更新などにあたっては、市民の要望や意見を踏まえるなど、市民との協働により、将来に渡って親しまれる公園づくりに努める。
- 地域住民で組織された公園愛護会などによる清掃や除草、樹木の水かけなど、きめ細やかな管理により、良好な景観の維持に努める。



小学生のワークショップを基に更新した遊具
(石ヶ谷公園)

(6) 持続性

- 改修の際は、市民が愛着を持っている樹木や池、建築物などをできる限り保存し、地域固有の景観の継承に努める。



公園愛護会による清掃活動



8 公共建築物

建築物

(1) 調和性

- 建築物を周辺景観にうまく溶け込ませ、調和するよう、建築物の配置や形態などに工夫する。
- 周辺の建築物と色調を合わせるなど、周辺景観から突出したデザインにならないように努める。
- 駐車場の入口デザインは、前後の道路や通りとの調和に努める。



周辺景観に溶け込み調和した建築物
(高齢者ふれあいの里大久保)

(2) 統一性

- 屋上の塔屋や屋外階段は、建築物の意匠と一体的なものとなるように努める。
また、屋外階段は、通りから見えにくい位置に設置したり、ルーバーで覆うなど目立たない工夫をする。
- ベランダ部は、建築物と一体的な意匠とし、空調の室外機は、目立たない位置への設置に努める。



施設内で統一された意匠の建築物
(大久保浄化センター)

(3) 連続性

- 建築物の高さや壁面位置のそろっているところでは、まとまりや連続性の確保に努める。
また、周囲の建築物の高さに配慮して、スカイラインを整えるように工夫する。

(6) 持続性

- 材料は、経年変化による褪色、損傷、汚れに強い材料を使用したり、時間の経過につれ、味わいのある材料の使用に努める。

(7) 地域性

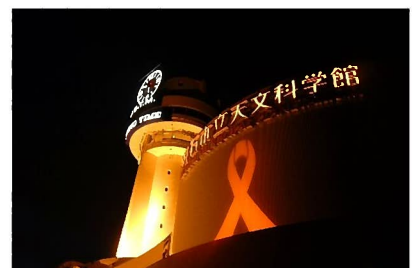
- 材料は、歴史的なまちなみ、商業や業務地、住宅地など地域特性に配慮した材料の使用に努める。
また、伝統的な建築物が残る地域では、伝統的な形態や意匠などを取り入れるなど工夫する。



周辺の住宅地など地域特性に配慮した意匠(産業交流センター)

(8) 快適性

- 雁行配置、高層部の分棟化、上層部のセットバックなどにより、圧迫感を和らげるように工夫する。
- 商業や業務地区の低層部では、通りに面した部分にギャラリーなどを設け、にぎわいの演出に努める。
また、ライトアップなどによる夜間のおもむきを演出するように努める。



ライトアップによりおもむきのある夜間の景観を演出(天文科学館)



- 敷地が角地にある場合は、まちかどとしての特性を生かすため、2面性に配慮したデザインに努める。
- 人通りの多い場所では、低層部にアクセントカラーを使用するなど、にぎわいの演出に努める。

(9) デザイン性

- 建築物の特性を見極め、勾配屋根とするなど、曲面をうまく用いるなど工夫する。
- 単調な壁面を避け、壁面の窓の配置や庇に変化をつけることにより、表情豊かな意匠となるように配慮する。



まちかどの特性を生かした2面性に配慮したデザイン（消防庁舎）

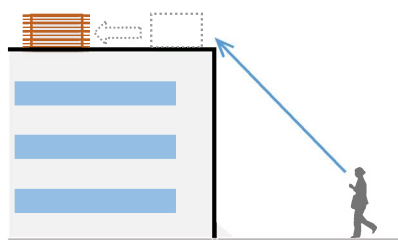


庇などにより変化をつけ表情豊かな玄関口を演出（二見西小学校）

設備

(2) 統一性

- 壁面設備である給水管やダクトなどは、外壁面に露出させない。ただし、やむをえず外壁面に露出する場合には、壁面と同系色の使用に努める。
- 屋上設備は、壁面を立ち上げるか、ルーバーなどで覆う。ただし、覆い措置ができない場合は、通りから見えにくい位置に設置する。



ルーバー等により遮蔽するか、歩行者等から見えにくい位置に設置

外構・接続部

(1) 調和性

- 塀や柵などは、周辺景観に溶け込む落ち着いた色彩のものの使用に努める。
また、防犯上の問題がない場合は、高さを抑えることで、敷地内が見通せる開放的な空間の形成に努める。
- 正面を駐車場とするのではなく、建築物の背後や側面に配置するように努める。ただし、通りから見える駐車場は、植栽で修景するなど工夫する。
- 敷地内の照明灯は、道路側の防犯も考慮して配置し、建築物の外壁などになじむ色彩を使用したシンプルなデザインに努める。
- ごみ置き場は、建築物などと一体的なデザインや植栽で修景するなど、まちなみから目立たない工夫をする。



落ち着いた色彩で周辺景観に溶け込んだ塀や柵（大久保浄化センター）



敷地内の照明灯など建築物となじむ色彩を使用（市営貴崎住宅）



(2) 統一性

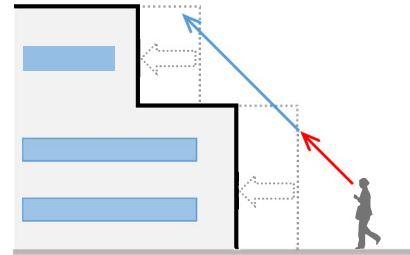
- 道路などから建築物を後退させることにより、周囲への圧迫感を和らげるなど、建築物の配置を工夫し、まとまった広がりのある空間の形成に努める。
- 段差をなくす、外構部分の仕上げ材料などを工夫するなど、他の公共施設と一体となった快適なアプローチ空間の確保に配慮する。
- 敷地に公園が隣接する場合は、管理者との調整を図り、施設相互の一体的な利用に努める。

(3) 連続性

- 生態系に配慮した緑のネットワークを形成するため、街路樹や公園などの緑と敷地内の緑が連続するような配置に努める。

(8) 快適性

- 樹木と芝などの地被類を適切に組み合わせるなど、緑豊かな空間形成に努める。
また、できる限り既存の樹木の保全や活用に努める。
- 緑と水の効果的な演出などにより、訪れる人々に快適な空間の提供に努める。
- まちかどなどの角地部分はボリュームのある緑地空間とするなど、緑が多い印象を与えるように工夫する。
- 小学校や中学校の中庭などには、並木や大木をシンボリックに配置するなど、子供たちの記憶に残る景観形成に努める。



壁面の位置を後退させることで、歩行者等の圧迫感を軽減



道路から後退し広がりのある空間を形成（あかし斎場旅立ちの丘）



まちかどに緑の多い印象を与える敷地内の植樹（大久保南幼稚園）

改修・維持管理

(6) 持続性

- 長期的な視点に基づく計画的な維持管理により、建築物の長寿命化を図りながら、当初の設計意図の尊重に努める。
- 建築デザインが地域の景観として親しまれている場合は、建て替え時にデザインコンセプトの継承に努める。



改修時に当初のデザインコンセプトを継承（二見市民センター）